

令和7年度 特別活動 指導の重点

西濃教育事務所

重点： 学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合う【合意形成】、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決および将来の生き方を描くための【意思決定】に自主的、実践的に取り組める学級活動の在り方を支援する。

項 目	指導改善の具体的方途
特別活動における目標と3つの視点	【特別活動の目標】 互いのよさや可能性を発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次の通り資質・能力を育成する。 ・次の三つの視点から育成を目指す資質・能力を明確化にする。 →授業参観の視点にもなる。 ○「人間関係形成」：集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点 ○「社会参画」：よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとするという視点 ○「自己実現」：集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点 「キャリア・パスポート」の意図的、計画的な活用 ・キャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫。
学級活動の目標と、主体的・対話的で深い学びを実現した授業づくり	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 →どの内容を意図的に扱うか。 学級活動(1)【合意形成(折り合いをつける力)】 □学級の諸問題から課題を見だし、議題を全員で決定できている。 □よりよい生活づくりのために、取り組む内容や方法等について、意見を出し合う、くれば合う過程がなされているか。 □多様な他者との対話、交流などを通して自己の考えを発展させているか。 □まとめる段階では、少数の意見も尊重した合意形成がなされているか。 (単なる多数決での決定は×、A+B=C、A&B&Cなど工夫された合意形成を) □教師の願いが全面に出すぎることなく、児童生徒の手による合意形成となっているか。 ・学級活動(2)(3)【意思決定(自分の目標やすべきことをもつ)】 □事前指導において、アンケート等を活用して題材に対する関心を高めている。 □課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉える。 □【つかむ】→【さぐる】→【見つける】→【決める】の指導過程を意識しているか。 □自己指導能力を高めるための学級活動になっているか。
○「ICT活用事例の創出と効果的な活用事例の生み出し」	・集団や自己の生活上の課題を解決するための学習者用端末の活用 □事前指導におけるアンケート集約 □中間交流における意識調査の実施 □考えを広げ深めるための視聴覚教材を生かした活用 □合意形成における意見の集約、自己決定における個人目標等の共有 □事後指導における途中経過や結果等の共有